



カメラマン：西山芳一（表紙、並びに当ページ）、撮影協力：堺市

旧堺燈台

大阪府堺市堺区大浜北町

その瀟洒な白い灯台は、大阪府堺市、上空に阪神高速が走る旧堺港の突端に立っていた。旧堺燈台は一八七七（明治十）年に建築された、高さ一二メートルの木造の建物だ。現存する木造洋式灯台としては、国内最古のものの一つとして国の史跡に指定されている。貴婦人の趣を感じさせる伶俐な姿もさることながら、美しい曲面を見せる基礎部の石積みが印象的だ。灯台の施工は堺在住の大工・大眉佐太郎、石積みは備前国（岡山県）出身の石工・継国真吉の手による。点灯機器の設置は英国人技師のビグルストーンが担った。約一世紀の間、堺港を出入りする船の航海の安全を守ってきた海の道標は、港の開発等に伴い一九六八（昭和四十三）年にその役割を終えた。現在、周辺は公園に整備され、市民の憩いの場となっている。

堺市文化部の岡本茂副主査に内部を見せていただいた。特筆すべきは内部の壁面に施された「木目塗り」だ。「自然木の木目を模して職人が描きました。人が居住する空間でもないのに、これほどの凝った仕上を施している。国が建設するのではなく堺の人々の寄付と当時の堺県の予算で建てられた施設です。いいモノを造ろう

といった当時の堺の人々の気概が表れていますよね」と岡本氏は話す。かつて「京の着倒れ、大阪の食い倒れ、堺の建て倒れ」と謳われるほど、堺衆は建造物に対して想いが深かったという。明治期の土木屋の矜持が今日も堺港を誇らしげに睥睨している。

改築を繰り返した燈台は、最も整えられた明治30年代の姿に復原された。木目塗りの装飾は本物と見紛うほど精緻なものだ。2001（平成13）年から5年をかけて行われた修復工事の際に、消えかかった塗り跡をもとに忠実に再現された。なお内部は非公開だが、イベント時など年数回程度、一般公開されている。（詳細は堺市にお問い合わせください。）

